

会社法人等番号：	0124-05-004289
----------	----------------

事業報告書

2019年7月1日から2020年6月30日まで

住 所 : 東京都調布市国領町1-25-20-509
名 称 : 一般財団法人宗像協会（宗像財団）
代 表 者 名 : 田中真奈

1. 事業概況

拠出金：	1億5千万円	初年度支出：	9,803,991円	今年度支出：	14,725,408円
------	--------	--------	------------	--------	-------------

役員等

	役職名	氏名	常勤非常勤の別
理事	代表理事	田中真奈	常
	理事	二階堂有子	非
	理事	田中和子	非
監事	納野和広		非
評議員	評議員	穂満将徳	非
	評議員	松浦由佳子	非
	評議員	田中誠	非
事務局	事務局長	田中真奈	常

宗像助成金支援事業

事業の名称	実施団体名	実施地域	支援額
人身売買からの少年の保護	Nedan Foundation	インド・アッサム州	2,008,000円
人身売買から保護された少女の暮らすホーム運営	Nedan Foundation	インド・アッサム州	
看護助手養成事業	Nishtha	インド・カルカッタ	1,008,000円
LGBTI コミュニティー支援	Center for Human Rights and	マラウイ・リロングウェ	9000米ドル (977,590円)

	Rehabilitation (CHRR)		
LGBTI 難民支援	CHRR	マラウイ・リロングウェ	
ユース・インパクト・ラボの運営	YouthFirst	マダガスカル・アンタナナリボ	8000 ユーロ (984,380 円)
安全な飲料水の提供事業	えひめグローバルネットワーク	モザンビーク・モアンバ郡	2,000,000 円
女性のエンパワメントと生活改善事業	えひめグローバルネットワーク	モザンビーク・モアンバ郡	
ロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援	アイ・シー・ネット株式会社	バングラディッシュ・コックスバザール	1,000,000 円
トランス女性への暴力防止プロジェクト (SGVB 防止)	Khawaja Sira Society (KSS)	パキスタン・ラホール	4500 米ドルを 2 回送金 (507,655 円, 495,910 円)
トランス女性を含めた若年層への職業訓練	Go Green Welfare Society	パキスタン・ラホール	9000 米ドル (1,007,200 円)
開放病棟による薬物リハビリセンター支援	Rosha Rasta	パキスタン・ラホール	9000 米ドル (1,007,200 円)
合計			
12 事業	9 団体	6 カ国	10,995,935 円*

*マラウイ事業への半年分9000ドルを2020年度に計上するため、予定より約100万円減

指定寄付金による支援

事業の名称	実施団体名	実施地域	支援額
女性のエンパワメントと女性の教育	lbtada	インド・ラジャスタン	262,500 円

TICAD7 公式サイドイベント

サイトイベント名	共催団体	場所	費用
----------	------	----	----

アフリカにおけるダイバーシテイ&インクルージョン	アイ・シー・ネット株式会社	パシフィコ横浜	990,882 円
--------------------------	---------------	---------	-----------

2. 理事会・評議会

第2回定時理事会	
日 時	2019年7月5日
議 題	2018年度事業報告の承認
	2018年度事業報告の付属明細書の承認
	2018年度財務諸表の承認
	2019年度事業計画の承認
	2019年度収支予算の承認
	事務局長への業務委託契約書の承認
	次回の定時理事会及び評議会の日程

第2回定時評議会	
日 時	2019年7月27日
議 題	2018年度財務諸表の説明と承認
	2019年度活動計画と収支予算の承認
	事務局長への業務委託についての報告

第3回定時理事会	
日 時	2020年1月10日
議 題	パキスタンへの助成金支援先の決定
	新しいロゴについての議論
	インターンの海外渡航とプロジェクトの説明
	助成金支援先の事業の進捗報告
	予算の執行状況と寄付金についての報告
	次回の定時理事会及び評議会の日程

3. 国内外の個人や団体への支援（定款目的①）

昨年度の引き続き4カ国（インド・マラウイ・モザンビーク・マダガスカル）で8事業の助成金支援を継続している。当初は4カ国全てをモニタリングに行く予定であったが、

新型コロナウイルスの蔓延によって6月を予定していたアフリカ訪問は実現しなかった。2020年1月27日から2月5日までの10日間でインドのアッサム州とコルカタをモニタリング訪問。コルカタ郊外で活動する Nishtha では養成中の看護助手との話し合いや研修先の病院訪問、地元である農村地域でのヒアリングなどを行った。また Nedan Foundation では少女たちを保護しているホームの拡張（ベッドルームの除幕式、養殖池の見学、畑の収穫でのランチ）を確認して、人身売買から保護された後に零細企業を始めた女性のヒアリングや、人身売買のハイリスクにあるムスリムの青少年との対話を行った。なお助成金支援の継続（2年目の助成金の送付）にあたり、年次報告書と会計報告書が5団体から提出されたが、マラウイの2事業については当初計画されていた LGBTI コミュニティーの保護と啓発活動が十分に行われていたと判断できなかった¹。CHRR 代表との Zoom 会議によって、今年度分の助成金は2分割として、10月の田中によるマラウイ訪問での現状確認とヒアリング後に残り半年分を送金することで双方が合意した。

新規案件としては、2019年の10月27日から11月8日までの13日間に渡ってパキスタンの主要4都市（イスラマバード、ラホール、カラチ、ペシャワール）を訪問し、19箇所の団体と個人を視察した²。その中で宗像財団助成金の基準にあうと判断された5団体より6事業の申請書を受け取り、2020年の1月10日の理事会において3事業を採択した。また昨年、設立者の宗像康子の個人資産より支援を開始していたアイ・シー・ネット株式会社のバングラディッシュにおけるロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援のフォローアップとして、100万円の助成金を支援した。今年度の新規助成金支援先としては、新たに2カ国（パキスタン、バングラディッシュ）で4事業の支援となる。

【COVID-19 への対応について】

2020年の3月からのコロナ禍によって世界的にロックダウンが始まる中で、今年度からの支援を決めていたラホールの団体より、職業訓練の対象となるトランスジェンダーの女性が路上から締め出されて困窮しているため、追加支援したいとの要請が入った。

¹マラウイからの会計報告については日本の ABE イニシアティブで留学中のマラウイ政府のケンフォードさんにクロスチェックを依頼した。啓発活動向けの小冊子の印刷部数が費用に対して明らかに少ない点や、宿泊を伴う合意文書（MOU）締結の会議でのレセプションなどの写真が提出できなかったこと、MOU そのものも国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）からの通達でドナーである財団と共有できないこと、などが問題点として指摘された。これらについては田中の次回マラウイ訪問の折に参加者との面談で確認する予定。

²事業報告の付属明細書①パキスタン出張報告書

宗像財団の助成金支援実施契約書では、事業地において「大幅な状況の変化が生じた場合には（If the organization faces contingency）」ビデオ通話などによる双方の話し合いを通じて追加支援を決定できるため、既に送金済みの金額より 15%に当たる分を緊急の食糧・医療支援に充てることを Zoom 会議の後に認めた。その後、ラホールの別なトランス女性による団体より、マスクなどの配布と COVID-19 関連の啓発活動での追加支援要請³を受けたため、こちらも送金済みの金額からの追加活動の実施を承認した。

同様の依頼と Zoom 会議による話し合いで、アッサム州についても追加支援要請を承認したが、サイクロンとコロナのダブル被害によって甚大な被害を受けているコルカタ郊外からは助成金とほぼ同額の追加支援要請⁴となったため、2020年7月6日の理事会で承認決議と7月25日の評議会での報告による、この支援を決定した。

4. 国内外での啓発活動（定款目的②）

今年度の活動で最も大きな啓発活動となったのは、2019年8月27日より3日間開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD7）の公式サイドイベントにおける「アフリカにおけるダイバーシティ・インクルージョン」というテーマでのパネルディスカッションの実施である。バングラディッシュのロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援事業を行っているアイ・シー・ネット株式会社と共同開催で、マラウイの Oxfam 代表、モザンビークの LGBT 団体代表、ルワンダの教育を考える会代表を招へいして、各国の先駆的な取り組みについてパネルディスカッションを行った。公式サイドイベントとして外務省のパンフレットに掲載された他、PR Times を通じて掲載したプレスリリースが読売新聞電子版他の多くのオンラインメディアに掲載されて、宗像財団を知ってもらう上での大きな契機となった。またこのサイドイベントに先駆けて YouTube に「むなかたチャンネル」を設けて、イベントテーマについてのビデオを作成して掲載した。

公式サイドイベントを通じて国際開発ジャーナルからも取材の依頼が入り、宗像財団のマラウイにおける LGBT 難民支援について写真と団体名が記載される形で2019年の12月号に支援内容が取り上げられた⁵。またその記事を通じて2020年の1月に東京女子医科大学において「セクシャルマイノリティと世界の潮流」というテーマでの講義を依頼され、行った。

³ 事業報告の付属明細書②ラホール支援団体からの追加支援要請の背景の書面

⁴ 事業報告の付属明細書③コルカタからの追加支援要請（活動予算案）

⁵ 事業報告の付属明細書④国際開発ジャーナル12月号記事（PDF）

その他の講義や講演としては、2020年1月に武蔵大学において財団のパキスタンでの活動を紹介する形での「SDGsの理念と行動」の出張授業、2月に英語による女性のエンパワメントに関する発表（Beauty Boost and Empowerment）、5月にオンラインによる英語での90分のプレゼンと質疑応答（Share Your Story）を行った。90分でのプレゼンの後にはオンラインで知り合った楽天に勤務するITマネジメント専門の参加者より、プロボノ（ボランティア）での活動支援のメールが入り、財団のHPへの多くのアドバイスをもらい、それを反映させることができた。同マネージャーからは財団のブランディングや広報資料について、継続してコンサルティングを受けている。

5. 国内外での支援を募る募金活動（定款目的③）

当初は「印刷費」として20万円を計上して、法人向けのパンフレット、個人向けのパンフレットを作成・配布することなどを検討していたが、コロナの影響によって紙媒体での広報活動は全て延期とした。また2020年1月の理事会において新しいロゴについてデザイナーと予算20万円を投入することになっていたが、こちらもコロナの影響で既存の支援先との連絡調整が優先順位となり、2020年度に延期とした。

2019年度は募金を集めるためにゆうちょに開設された振替口座の振込取扱票を500部印刷して、2020年2月の財団1周年の折に、活動紹介とお礼の手紙と共に50部を配布した。うち5件の寄付金振込があった。またコロナ対応については頻繁にHPを通じて情報を更新しており、数件の個人の寄付があった。PayPalの法人アカウントは無料のため登録したが、PayPalを通じた寄付金の受取りは日本では認可されておらず、断念した。またクレジットカードによる寄付金の受け付けを当初はPayPalを通じて行う予定であったが、同じく寄付金としてのカード払いを認めていないため、こちらも保留となっている。2020年度からファンドレイジング担当顧問を迎える予定であるため、寄付の集め方やカード払いなどについては、担当顧問とも相談の予定。

活動への指定募金としては、インドで女性のエンパワメントと女子教育に取り組むIbtadaへの寄付金として、Global Giving Foundationより257,460円の着金があり、Ibtadaへの寄付を行った。この団体は2002～2005年にかけて田中がローカルスタッフとして女子初等教育プログラムに携わっていたラジャスタン州のNGOで、2018年の12月にも再訪している。

6. インターンの活動

宗像財団では 2019 年度は 2 名のインターンを受け入れている。10 月より国際基督教大学 3 年生でパキスタン出身のウルーサ・マフムードさん、1 月よりルワンダの PIASS（プロテスタント人文・社会科学大学）から東京外国語大学へ交換留学で来ているヘレン・ミカンダさんがそれぞれに専門性や興味が高い IT と教育、アフリカにおける LGBT の現状について調査報告やプロジェクトを立ち上げた。

IT と教育が専門でプログラミング言語に精通しているウルーサさんからは、出身地であるカラチでの貧困層の女兒への 15 日間のプログラミング・ブートキャンプが提案された。田中のパキスタン訪問（11 月）の折に JICA 識字プロジェクトにコーディネーションを依頼して、3 月 4 日からウルーサさんを現地に派遣。しかしコロナ蔓延を受けて、当初は 3 月 15 日までだったカラチの学校閉鎖が 5 月末まで延長され、学校閉鎖がなかったラホールでの開催についても途中で実施困難となったため、予定を変更して 3 月 18 日のフライトで帰国した。ウルーサさんの卒業は 2021 年 6 月の予定であるため、今後も IT 分野で HP の更新などをお手伝いいただく予定。現在は夏季オリンピックボランティアが無くなったために、夏のインターン先を探している。

ヘレンさんからは、母国のコンゴ民主共和国を含むアフリカ諸国での LGBT についての調査報告がなされて、アフリカに住む LGBT の当事者とルワンダの PIASS の学生とのオンラインイベントが企画された。2020 年 6 月に開催された「オープン・ダイアログ・アバウトタブー」の 2 時間のオンラインディスカッションには、マラウイからトランス男性、モザンビークからゲイ男性が参加をし、本人のライフストーリーの後に学生との質疑応答を行った。ルワンダ留学中の日本人学生も参加をして、トータルで 25 名の参加者だった。事前・事後のインタビューにおいて、参加者の意識の変化も見られて、小規模ながらも大変有意義なダイアログであった。ヘレンさんは 2020 年の 7 月下旬にルワンダに帰国予定であるが、このようなダイアログをまた行いたいとの希望がある。

7. 今後の課題

3 年間の宗像助成金（Munakata Grant）支援国、支援プロジェクトが確定しており、また TICAD7 公式サイドイベントの様な大規模な活動が予定されていないことから、2020 年度は財団の理念を固め、啓発活動などを通じて認知度を上げていくことが課題となる。

2019年11月下旬より代表理事兼事務局長の田中が非常勤正社員として開発コンサルタントの仕事に復職したため、2020年度はファンドレイジング担当顧問を迎えて、主に寄付金についての計画づくりを進めるとともに、専門性の高い方々にプロボノベースでご協力いただきながら、広報活動やモニタリング活動を行っていきたい。定款の3つの全ての活動において、よりマンパワーを必要としている。コロナ禍を受けて、企業のCSRとのタイアップなども難しくなってきたことから、どのようなターゲットにどうアプローチするのが、今後の検討材料である。

別添書類：事業報告の付属明細書